

H30年度

# 予算特別委員会

3月  
12~13日

平成30年度の町づくりに使われる一般会計、5特別会計、企業会計を合わせた7会計の各予算について審査する特別委員会を設置して審議した。

委員長に高橋芳夫委員、副委員長には高橋浩樹委員を互選し、9人の委員（委員長を除く）が、焼失した旧谷口分校再建や中央公民館の改築などを控え、投資的経費が膨らみ、前年度比9.4%の増額となった30年度予算編成の重点項目への対応や現状課題への対応を質し、全会計を原案のとおり賛成多数で可決した。



高橋芳夫予算特別委員長

## 町立診療所の課題解決策は

中村 忠行 委員

**問** 町では健康長寿を政策目標に掲げ、ガン探知犬による検診研究事業や福祉政策により、事業効果を確信している。しかし、町の人口減少は進むと思われるが、健康寿命が進めば診療所の利用数が減少し、人口が減少すれば、更なる利用者の減少は避けられない。医師不足、看護師不足の課題、利用者増に向けての考えは。

**答** 後藤診療所事務長 今後はガン探知犬による研究事業による理由のみならず、人口動向から



健康長寿の拠点として期待

も診療所利用は少なくなると推定されるが、在宅ケアや、みすぎ荘の利用者は増加すると考えている。

町外からの利用増は現実的に難しいと考えるが、ホームページでのPRなどを図りながら、外部にも周知活動を行いたい。町長 医師確保が大きな課題であり、山大医学部や県、県立中央病院、自治医科大にも相談し、優秀な医師確保に努めていく。

**問** 通常健診でガンの陽性判定が出た方は5名いたが、ガン探知犬による陽性反応が出たのは1名だけであった。陰性の方も陰性でないことを証明する再検査が必要では。

**答** 五十嵐健康福祉課長 再検査については、陽性の方を先に実施し、陰性の方を後に行う。ガン探知犬による検査は町の検診と同時期に行われ、町のガン検診の結果が早く、精密検査の判定を受けて、ガン探知犬による判定との突合を行い、陽性とわかったとい

うものであり、すでに精密検査を終えていることから再検査は行われていくと考えている。

**問** ガン探知犬の診断は正確性の確率が低いため、陰性であることを確認するには別の方法がいいのでは。

**答** 町長 正確性の比率やガン探知犬の能力に係る分析など、今後進めていく中で注意が必要であると考えている。夏場の気温が高い状況下では探知犬の能力が低下することもあり、検体検査の数も協議を要する。

**問** ガンの判定に10年かかるケースもある。宮下先生から線虫でのガン検査にも取り組んでいただけるようお願いできないか。

**答** 町長 30年度予算に29年度の研究による検査に基づく結果に、一部助成を計上した。ガン探知犬検査に代わるものへの取り組みは難しいと考えているが、宮下先生にお願いしたい。

**問** ガンの判定に10年かかるケースもある。宮下先生から線虫でのガン検査にも取り組んでいただけるようお願いできないか。

その他の質問  
医師住宅建設工事について

健康マイレージポイントについて

## 今後の小学校のあり方は

沼澤 道也 委員

**問** 小学校統合は急がな

の施策に対する要望もあるが、中田小学校で統合に携わった方の話では、学年の人数があまりに少ないと、成長するにつれ、関係性が難しくなり、「統合について前向きに話し合われるようになった」とのこと。

人数が多いことで人間関係が作られるので、状況に応じて、仕組みを考えていくことが重要である。町長の施政方針において、学校のあり方について、「内部的」とは、どのような段階を示すのか。統合を含めているか。

**答** 教育長 大人数の成長に関して問題はなかったと考えている。現在は、学力に関しては少人数の場合、先生による個々への指導が行き届く。また非認知能力による人間力の育成も、学校全体では、少人数であるため、リーダーシップが求められる部分も多く、深い人間関係づくりは、少人数制の特性であると考えており、学校全体での関わりにより、少人数という面は補われていると考える。「内部的」ということで、仮称「教育環境検討事業」として有識者による指導などを想定して事業化している。人間関係や学力の基本を学び、中学校へ送り出す準備ということで、特に小学生に注目しながら整えていきたい。

**問** 地域では、「がっこそば」をなぜ優先させるのか疑問を抱いている方もいる。このような中で、議会への説明前に報道がなされたのはなぜか。また、町長は予算が通ったから地域に説明して進めると言うが、その考えには反対である。同じ地



関心が高まるガン探知犬事業